



「学校支援チーム」第2陣の先生方にお世話になりました

8月31日（月）から9月4日（金）まで、第2陣の「学校支援チーム」の先生方にお世話になりました。お一人は京都からいらした大崎先生、もうお一人は東京からいらした橋本先生です。児童の見守りや話し相手、図書室等の整理、学童への見送りなど、多岐にわたってお世話になりました。様々な教室で、地震後の児童の様子を見ていただきましたが、子供たちがいろいろ話しかけてくれたので嬉しかったとおっしゃっていました。人懐っこいところも本校児童のよいところ。元の職場に戻られても、花園小のことを忘れないでくださいね。このご縁を大切にしていきたいと思えます。ありがとうございました！



はなぞの学童クラブまで付き添い



地震で本が散乱した図書室の片付け

前途洋々



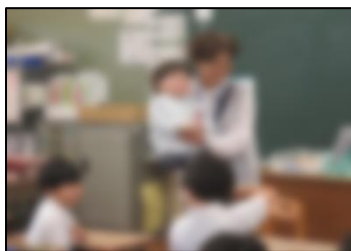
3年算数の研究授業を実施しました！

9月9日（水）の5時間目、3年2組で算数の研究授業を行いました。県立教育センターから講師をお招きし、研究授業の後、全体協議や講師から指導助言を受ける時間を設けました。本時のメインの学習課題は、「31人の子どもがいます。1台のマイクロバスに8人乗ります。全員乗するには、マイクロバスは何台あればいいのでしょうか」というものです。わり算をしたあと、その余りの数をどうとらえ、答えをどのようにするのが問われます。生活の中でもよく出会う場面ですね。この課題の場合、「 $31 \div 8$ 」から導き出した商の3とあまり7の意味について考える必要がありますが、単純に答えを出すという問題ではないため、子供たちはいろいろと迷いながら、「バスは4台必要」という結論に達していました。今回も思ったことですが、子供たちと大人の発想は必ずしも一致するとは限らないということ。子供たちにとっては大きな視点の変換が迫られる、節目となる授業だったようです。（写真右：「3台と考えた人」と「4台と考えた人」に分かれ、意見を交換しています。左：授業後の研究会で、職員が協議をしています）



こんなときだからこそ「読み聞かせ」 ～ 心落ち着くひととき ～

「赤い鳥」さんによる、恒例の朝の読み聞かせ。地震発生からまだ日は浅いのですが、こんなときだからこそ子供たちに物語の世界を届けたいというご厚意で、9月8日（火）の朝の時間においでいただきました。今回の対象は、1・2・6年と4年1組。慌ただしい一日の始まりが一気に落ち着きました。子供たちが元気で安心したとお声もいただきました。ご自宅の方も大変な中、本当にありがとうございました。元気をたくさんいただきました！



子供たちの元気な挨拶 他県応援の方々に褒めていただきました

皆様もご存じのとおり、地震発生以降、宇土市には他都道府県から様々な形で応援に入っただけです。先週のことですが、他県の警察の方が、通用門で下校の見守りをしてくださっていました。そこを通りかかった5・6年生が、「私たちのためにありがとうございました！」という挨拶をしてくれたそうで、警察の方々がたいへん感激しておられました。素直に感謝の気持ちを口にできることの素晴らしさを改めて感じました。また、子供たちのお陰で、熊本を好きになっていただけたのではないかと思います。このように、広い視野をもった言動ができる子供たちがいることを大変誇りに思います。

